

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		日常的な外出支援ができていない。	職員の人員が整っている日は外出の機会を増やし、外気に触れることができる。	近隣の散歩、買い物への同行	3ヶ月
2		地域住民との繋がりが少ない。	地域住民との交流が期待できる行事への積極的な参加ができる。	毎週日曜日のラジオ体操への参加を継続し、運動会や地域清掃などへの参加を途切らせないようにする。新しい地域行事への積極的な参加。事業所での地域住民が参加できる行事の企画等。	3ヶ月
3		ADL維持が難しくなっている。	ADLの維持ができ、活動的なレクリエーションや自発的な趣味への取り組みができる。	室内往復歩行運動や外出による歩行、各利用者に応じた個別歩行運動を行う。 (脚挙げ、つま先や踵挙げ、屈伸運動等、下肢筋力の維持を図る)	6～12ヶ月
4		災害対策、地域との体制がとれていない。	年二回の消防訓練への地域からの参加が増える。	近隣への散歩や行事への参加で地域住民と顔見知りとなり、消防訓練の参加へ繋げていく。	12ヶ月
5		家族交流、家族様同士の会話の場が持ていない。	職員も交えて気軽に相談や会話のできる機会が持て、家族同士での悩みや要望などを聞き出す事ができ、家族支援が行える。	季節毎の行事参加への促し、家族間の交流へ繋げられるように企画を立て、職員が中継役となる。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。